

集連

二 紹巴

伊地知文庫
文庫20
39
3

85

80

75

70

65

其本れは... 時... 日... 日... 日... 日...
 高... 日... 日... 日... 日...

文庫 20
 39
 3



何路

取り及よ... 梅結巴... 玄... 福... 玄... 福... 玄... 福...

ニウ
ふねくればおれ様もさうして
忘れらるるまきほつ袖の、徳札
いけふふむむむ中何し 徳札
付めくかききかきくま仕 徳巴
まふせむ徳のまふしとら果徳徳
言ふくはくくく松枝れけ 徳智
おくふやりの馬おきして 徳眼
とらふおふくらの心風 徳水
おらわらわらわ月よまらん 徳純
あふくも居よ又と秋の秋 徳長
不直とらむくくく菊のむ 徳助
おらぬふく袖のあふくく 徳実
りくく徳のふまの徳と徳 徳通
おれく徳のふまぬくけく 徳伸

三

わふ坂や実の清めと徳の徳札
おらてくくくく本一のく 徳徳
おらえやまららほとまのく 徳巴
りくくくくくくくくく 徳伸
啼けか三月のそれくく 徳眼
まのくくくく月よくく 徳通
徳とぬおのくくくく 徳伸
くくくくくくく 徳眼
おらくくくくくく 徳水
又の徳くくくく 徳助
徳眼くくくくく 徳眼
くくくくくくく 徳眼
わらわらわらわら 徳伸
おらくくくく 徳眼

三ツウ
心づくぬきのさのりかきりて 九康
かのふ見ゆか様りあゆ細色
こいこい何人あふふ業の席 宗仲
あやよふや又うきや甲 玄仍
けふあふきの様くたうらまを 玄良
中になてりうらまをたの也中
月影やあふあふのさもさのん 九村
輝のりあふいけらりそ 九康
まわくと河のされまを 九家
うらなふねりうきをさわわら 宗良
よきゆり海はあは淡海ゆき 九村
入のりまをうらまをさのん 九佐
咲かん本れりやまは花をさ 九佐
風のまわらぬりま柳 宗祐

若

うらまをたのりあふの朝のあ 玄仍
よあ甲のりまはりのさのり 玄良
淡雪のゆり様まをさのり 九康
あゆりりまをさのり 九家
あやあふまのまをさのりの末中
吹しきさのり月のはる風 宗仲
一とまを輝のけるやさのん 宗祐
やまのりまをさのりのさのり 九佐
さのりの地をさのりのさのり 九佐
里のあまのり人常まのり 九村
のりの方のりまをさのりの末
川まをたのりあふのさのり 九村
あまのりまのりあふのさのり 九家
まをたのりまをたのりまのり 九仍

子より種ありのなる斗 立忘
 ほとけのついでとていへ 京祐
 も多し大徳ありとていへ 京祐
 かつし物ありとていへ 京祐
 ついでとていへ 京祐
 法ぬありとていへ 京祐
 常とていへ 京祐
 多しとていへ 京祐
 中 八分 結巴十一 元家七
 半歳一 玄仍十 京祐七
 元秀一 元村七 立忘五
 松島九一 玄良七 石丸六
 首歳一 玄信六 永吉六
 九康九 宗伸六 徳宗一

何田

新もあつとていへ 京祐
 中よりありとていへ 京祐
 苗代とていへ 京祐
 西晴とていへ 京祐
 月よとていへ 京祐
 常とていへ 京祐
 風とていへ 京祐
 ころとていへ 京祐

二
志が電のまのわ松の枝さう 紙中
風そかりけい 雲のう浪玄仲
からく果果わらや 御舟昌比
志はけり程多し 枕さぬ妻紙之
こぼれたふのうとさかすそ 玄仍
かきふらふとくそささしとを
近くしてはらひの心はけしは 紙色
ゆかんとくまのいさしとく 常殺
年ゆりともさあぬさう田舎信生
あつれいさしとく月の影かく 長虎
おふ松の志さうとさあぬとく 徳礼
か常あつるぬら ちさちか父友益
伊あつれの根さうとく 紙色 昌比
かさちとくさあぬとく 紙色

三

紙波のまのわ松の枝さう 紙中
志が電のまのわ松の枝さう 紙中
風そかりけい 雲のう浪玄仲
からく果果わらや 御舟昌比
志はけり程多し 枕さぬ妻紙之
こぼれたふのうとさかすそ 玄仍
かきふらふとくそささしとを
近くしてはらひの心はけしは 紙色
ゆかんとくまのいさしとく 常殺
年ゆりともさあぬさう田舎信生
あつれいさしとく月の影かく 長虎
おふ松の志さうとさあぬとく 徳礼
か常あつるぬら ちさちか父友益
伊あつれの根さうとく 紙色 昌比
かさちとくさあぬとく 紙色

若う
 漢のふまのりかるとい見り 紙巴
 ちるるつらと所糸竹の製能札
 ぬちちも元のうららり雅楽也 玄仍
 定と何れも梅やちる人 昌比
 言新晴ふり白の跡と遊之を
 ちう控るる淡雪のつら糸般
 一方いじしとてこわぬあて 紙之
 りそれ何れわり 輝の藤了 玄仲

昌比十一	玄仍九	紙中六
能札八	糸般九	玄仲七
紙巴十一	友益七	能舞一
生 八分	長沈七	
之 九分	紙之七	

追善

独吟

可う人とかく所ちち梅る紙色
 葉のりけ野れかとし又あ
 をいれ高み紙と風とち
 流ゆるる水りさし字を
 文 後ちと紙のり月がらん
 務 晴らも紙神のりさる
 本の下に輝のけぬれ高らて
 屋、も、之れ日は書にち

しつゝぬり梅の春陰晴のちり曇
らまぬくから道は深しとつち
をくく釣やとちり水もたて白
庭よりぬる影の中宿有春
曇の日の風も春のうらや細巴
竹のまゝたれきく海も又曇
啼多の翅りのふゆ初て
田面しけく月の下た白
棠楊の終く白う梅は春有春
あし柳の木のたれり門細巴
ちりり苔の影もふ元と又曇
あしく落きぬらあささう
春も春陰若いわさか夕暮に白
いとわはるうらさの点有春

二

若柳は春末の影の暮れ又細巴
いとりの梅もあつたさちり曇
春のうらやぬくさのさしあはる
わやれらるい伝と伝も白
あつた人を津ぬまの何と春
うらやぬく影のたれうゆの細巴
わすれぬいさゆ心の春も又曇
春と見しや春天のさつちあ
七夕のふれはるから曉り細巴
梅もけくくと田面く春人春
かと陰もあさるり梅も秋も白
三つ人よつしらあさ草 曇
あつた影も細り月もあつち
あつた影もくくくうも白

ニラウ
ちの尾とに寄にうのしを春
花の本のふれ種の色にきり紙色
人足ぬ里に入りのかき野に昌比
紙とにぬけるまの江のあふ前
川からの紙の遠よりくまを白
かゝる藤屑よまのふかき春
ふつこのまの色れまぬるに紙色
けぬるまのや藤のこのま昌比
輝風のまの紙あきて心前
かいらちまのまのまぬる紙色
かひれ月まのまの固れま昌比
ぬるまの清りまのまのま白
笛竹のまのまのまままま春
まのまのまのまのまのま白

三

二月のつまに誰もあふ世ふ白
まのまのまのまのまのま白
小車のまのまのまのまのま白
のまのまのまのまのまのま春
まのまのまのまのまのま白
孫のりの紙のまのまのま白
おぬるまのまのまのまのま昌比
わのまのまのまのまのまのま白
右人れ紙のまのまのまのまのま春
のまのまのまのまのまのまのま
枚のまのまのまのまのまのま白
まのまのまのまのまのまのま春
かまのまのまのまのまのまのま白
ゆら本まのまのまのまのまのま昌比

くららつむらねほひのくろくあひ若
 去かりの字のくらしき白
 かたしひ光とくわの本本よ有考
 とくそ女字のたなふか多し紅色
 のう出のたしお言の言の志昌比
 まらうじがや浪の舟人 四前
 月かしのれ表といひく浦は白
 阿まの都とつる旁入し多考
 刈海と中におくそわおらん 紅色
 とく(と)ららつと志のわその昌比
 かうゆらし席のまにうしとく 四前
 ち、さうの石とわりのわら 紅色
 ながい人の都志のくや春の死 有考
 あうらうくしらうのわさて多白

わの具のくまの櫛のく座 昌比
 ぬらふらよかぬのくぬの 昌比
 さはらふら形らよの田のく 紅色
 けうかから末ぬかたの 有考
 ゆらふら(と)とまのく 有考
 ねむれうら(と)とみは 有考
 足踏もわら(と)とまの 有考
 かほらららら枝とらとて 紅色
 はまら(と)とまのく 有考
 出(と)とまのく 有考
 ふれらの志のれとまのく 有考
 けう(と)とまのく 有考
 輝の葉のよまのく 有考
 やくゆの野のく 有考

若^ウ 詔しつわにしつ略れを所り 昌^ヒ
 けふか田はくや芳^ウのくらん 玄^ク
 兼く^レ 其葉のあはじとわれ 九^ク
 ち^クはく^ク 白^ク死^ク本^クの^ク 九^ク
 永^ク思^クを^クわ^クと^ク敷^クを^クぬ^ク輪^クの^ク高^ク高^ク
 あり^クく^ク 其の^ク長^クの^ク所^クの^ク 祿^ク
 者^クゆ^クり^クる^ク代^クの^クあ^クつ^クて^ク 友^ク
 とい^クけ^クる^ク所^クも^ク人^クの^クか^クつ^クる^ク 友^ク
 紹^ク巴^ク十^ク 祿^ク高^ク八^ク 宗^ク順^ク六^ク
 九^ク德^ク八^ク 玄^ク仲^ク八^ク 古^ク為^ク六^ク
 昌^ク叱^ク十^ク 九^ク維^ク七^ク 矣^ク右^ク一^ク
 九^ク康^ク八^ク 紹^ク自^ク七^ク
 玄^ク仍^ク十^ク 友^ク詮^ク八^ク

何本

わ^クは^ク程^クや^ク美^クの^クう^クの^ク楊^ク天^ク川^ク 紹^ク巴^ク
 九^クの^ク所^クを^クそ^クの^ク八^ク月^クの^クり^ク末^ク文^ク兩^ク
 花^ク馬^クれ^ク如^クか^クう^クに^クも^ク旅^ク越^クて^ク他^ク所^ク
 け^クる^ク 其^クの^ク長^クの^ク所^クの^ク 昌^ク叱^ク
 ち^ク於^ク此^クを^ク田^クの^クり^クの^ク 紹^ク自^ク七^ク
 け^クる^ク 其^クの^ク長^クの^ク所^クの^ク 一^クの^ク 通^ク但^ク
 高^クり^クて^ク 求^クけ^クる^ク 其^クの^ク 友^ク詮^ク八^ク
 とい^クく^クの^ク 友^クれ^クの^ク け^クる^ク 其^クの^ク 友^ク

う
ふりふりくそれ之ゆゑに
わゝゝの末のふりし成りし
波は後りしおゆり津津舟乗由
川菴のふり浦は台茨腐桐
善ぬれに秋のさ輝の月猶の
あそ拂ゆりし衣子の霜紙巴
聖帝跡のゆゑに枕して文閑
狂言の席り中お煮る高他の
紅松の死の林へ移るいし昌叱
乱合はけしこゝの草心若
舟もあつた雛子のうらたきん
ゆ歌をさる吉りのを道本組
いしくのりふりしぬれのと
波もはけりし日秋移るぬれ

二
浦をの田島も小靡らる人
ゆふりの葛風流分若兼由
輝の夜里も奥の祐きて腐桐
あそけあそぬりし申道文閑
かのふり月さるりしぬれ心
夕のそりし輝をの夜昌叱
とこえれ契あつしゆゑに他何
あそこつたあれらせにゆゑに
あそふりしぬれぬれぬれ心
あつたあつたあつたあつた
波は後りのあつたあつたあつた
風を後尾死つたあつたあつた
初の内さるぬれぬれ心

里多々、旁々、ふせわ、ふせ、文閑
 かし、さき、我く、竹の葉、又、腐相
 白木綿、や、糸の、後、七、あ、る、人、昌比
 句、の、清、り、小、車、の、袖、他、の、
 折、れ、や、う、り、う、の、あ、の、花、の、枝、心、前
 道、の、う、え、う、い、し、の、宮、の、歎、を、経、清
 返、と、田、代、地、と、う、い、ふ、あ、る、は、て、経、巴
 栞、氏、福、の、ら、信、后、と、い、は、し、信、頼
 月、と、い、ふ、と、独、り、う、い、ら、寺、の、あ、る、あ、ま
 の、の、か、さ、や、霧、い、し、あ、る、う、道、但
 家、守、の、氏、信、は、れ、あ、る、は、煙、木、但
 我、世、の、信、を、そ、ま、毒、の、袖、昌、比
 松、の、戸、い、は、れ、あ、る、人、浦、心、い、兼、由
 夏、と、い、ふ、い、は、れ、あ、る、木、の、下、文、閑

末、を、流、し、と、り、し、留、て、他、の
 以、下、の、信、を、そ、ま、は、る、の、信、巴
 家、の、い、し、集、り、あ、る、あ、る、あ、る、信、頼
 立、神、の、り、わ、り、信、家、と、い、は、し、あ、ま
 族、后、多、弁、柄、と、い、は、し、あ、る、昌、比
 縁、の、洞、を、奥、信、の、陰、心、前
 そ、い、は、れ、あ、る、信、し、の、あ、る、信、清
 香、の、わ、り、し、し、滝、津、川、若、殿、相
 花、と、い、ふ、信、を、そ、ま、は、る、信、頼、
 友、と、い、ふ、あ、る、信、を、そ、ま、は、る、信、頼、
 ち、と、い、ふ、信、を、そ、ま、は、る、信、頼、
 月、と、い、ふ、信、を、そ、ま、は、る、信、頼、
 の、の、端、れ、信、を、そ、ま、は、る、信、頼、
 ら、と、い、ふ、信、を、そ、ま、は、る、信、頼、

天比とひく神の神のあ
かり小つら紙のぬ紙色
かしく紙飛よつら紙の兼
うらふ杖の恨しく友昌比
あらしののの福あつらん蓋
ちう紙よふ紙の背の紙の黄紙
えあしく紙のうら紙の紙
こぬ紙のうら紙の紙の紙
からし紙のうら紙の紙の紙
をうら紙のうら紙の紙の紙
野のまやあふ入し紙の昌比
垣か小紙のうら紙の紙の紙
曇りくれ田中のうら紙の紙の紙
からし紙のうら紙の紙の紙

降や松川のうら紙の紙の紙
よふいしく小紙のうら紙の昌比
声あいのうら紙の紙の紙の紙
床も紙のうら紙の紙の紙の紙
白くんの紙のうら紙の紙の紙
うら紙の紙のうら紙の紙の紙
もくやう紙のうら紙の紙の紙
恨しく紙のうら紙の紙の紙の紙
衣のうら紙のうら紙の紙の紙
ゆら紙のうら紙のうら紙の紙の紙
いと紙のうら紙のうら紙の紙の紙
ましく紙のうら紙のうら紙の紙の紙
枕を紙のうら紙のうら紙の紙の紙
うら紙のうら紙のうら紙の紙の紙

若う

年々文越てし曰く山々も珠長
多りとのやけ建つては兼如
ら初よ入るる川の最なる紐巴
きむむらうも此より人昌比
うらうこらういふもたれむ右運
このりててしこもななく正益
常くけてわつたおる秋の風黄枯
松の旁すふあうら日乃氣正繁

- 紐巴 十五 珠長 六
- 氏胤 七 正繁 八
- 昌比 十三 正益 六
- 心前 十二 右運 七
- 黄枯 十 紐与 五
- 兼如 九 虎松 一

高河

出の目ふしうふら根の好の道紐色
旁晴ぬれハ屋ましく心白
吹送る風と城の馬啼て丸康
す息と向ふふもろく港田昌比
空の浪や月と若くと越つらん日大
船さしめらる袖の涼くさ玄何
忌憚ふ常は疎らぬさく兼如
わぬ入るさくさく柳兼如

ウ
くまの松よわしやあしん 貞山
宿りりしむらるれ都久く 元村
久白の跡ももの言海り 石の
新とこまらふ玉祥の末美右
柘始の葉の緑のまのあま白
ゆららむあし後く 大毛 伝色
くまらし小川わらりも 昌比
下葉くまのまてしし竹 九康
風つらり里の芳まあまを 玄何
わら田由し 世の麻の毛 貞大
空いまし月やうるるこ 糸祐
あまの松ありの死のりも 外 義
まぬれ右あしつくとまの古 貞心
いりりつらるれあふし海 元村

二

まのくや松をこまのり 伝色
何ぞやまの人のまのり 貞心
かまらりららのいんば 九康
川うこまをこ下り 葉 弘白
瀬の波のまの成の ぬ鳴と 貞大
まの波白くゆら松風 昌比
わらまのまの葉の 傳 貞大
まの田ありつらるる ぬま 貞大
まのまの竹の末く ばり 貞心
はくまのりるの 一とら 糸祐
傳のまのまのまの 貞心
まのまのまの 一とら 貞心
かまらまのまのまの 貞心
新のまのまのまの 貞心

三日路や森の下迄分けて結巴
 阿ふか、やほと出る道 九康
 傳ててあまのたまふ言 京祐
 祢らうさうこし 羽吹 尊の目大
 吳竹のつらみりつら寒のふ 兵山
 ながれもそよ風 園のつらふ 京敏
 家をぬわらふ袖のしらふ 白
 らうけは舟の聖さう 銘 昌記
 志はゆきさきさき月おて 古の
 船のり 赤らわらうと波 絶
 けはちり力の飛代 八 義志 玄の
 人 志守のまわるのこけし 九村
 指まてりつらまらるる 死の伝 目大
 こしをさうつら 風の響 兵山

さいふいさきのりあをを 龍 昌記
 こつこつあつこし 約いふへ 京祐
 清きよふれいひる 雲送り 京敏
 酔こそちゆれ 酒の 不 直 古の
 所らわらふいさ 雲の 海 兵山
 祢らうさうこし 地つら 京 玄の
 夕まふりさつ 境いさ 候して 絶
 人きさきいぬまの 一じり 目大
 伝のいさつらう 九月 又 兵山 九康
 いららひは 雲の中 の 輝 風 白
 常毎まらつら 虫の 殺し 九村
 つら力の 傳や 阿ふか 京 昌記
 旗のつらふら 阿ふか 京 祐
 ゆらさけ せんせい 京 祐 京敏

若う

火の神と神をいふは是は日大
中より出ての神のまゝ九康
神人のいふははるるを元昌
昌也と云ふ人も是なりと云ふ
右の戸は道に流るる水白
くまのれ水と云ふ人も
かえりては是神のまゝ元昌
万の民と云ふ人も是なり

絶巴十一 日大九 真山九
白 十句 玄の十 元村七
元康八 元敏九 右六
昌也十二 元祐八 真石一

初何

約月よと云ふ人のいうち絶巴
夏初と云ふ人の元昌
麻の着と云ふ人の元昌
あまのあまのあまのあまの
う木の落る末のしりくも昌也
夕日のあまの田面をわき後孝
一と云ふ人のあまのあまの
くまのあまのあまのあまの

三
多ふしめふりもんと何事と兼
族のなまけや家よの宿る雲
み月ぬい晴るるえのやそ結巴
庭ししるのちの波の川橋心
か死なせ逢へぬ水た常流の正位
わくくろのよや月よまらさん正位
あつきよ城もれや馬の鞍昌比
常れまふ人のころる雲の道後孝
りり人のいそごころと結巴
やすしはけり、袖のましく結巴
乃ぬこのりぬいひのわづら
じらうり下ししららるの門昌比
あつらふし果る花の言ひら
かとこころのあはれあしく忠告

三
かあや田のあかりきつ垣朽て結巴
若入とも田わつらひあじつ
啼あてらひ物たらくと昌比
うそそ月く出の國の戸兼
かけりて約書と物たらくと昌比
こもまの事しあの物と結巴
いられそ仍りあふくつ忠告
あゆみ筆の結もわく人結巴
そらちねの縁分あふれくよ正位
あふりれまことそらまはく人昌比
あつらふ林のよふた物清め後孝
かじり人若れ物あうの心正位
あつらふこと契す花の道隣心
人そららぬあはれと長め心歳久

高ふしむるの暮天胡鳥 藤
東風吹風つさしうみ 神鳥
海と船わたりつし出さ 紙色
日乃あうとくさの末く 心
家かこし海つ弦の舟煙と 藤
後登のわらわさ字の蚊交り雲
しじゅう竹の林のけらん 歳久
生さるるありわ松の本さる 節

紙色 十吉 福永 七
正信 七 正野 九
心前 十二 忠吉 六
歳久 八 兼如 六
昌比 十三 後依 一
後孝 八 了雲 九

何路

月と春かき向輝大いなり 昌比
そと旁らうぬふ風乃わや 孝久
村はるるの格み葉して生
お心と通さる麻乃若友益
一とらりる乃門田よけらん子
格いなるれり里入るる 昌塚
かあ海とけこの竹の志く涼さき
と水のはさるるふらぬら 既立

若ク

をうぬふくへく言かじ菊
かきも花をからか馬子昌比
立つて志の留りとあくる既在
らこりてゆく末のあま生
道有毎まゝのてはわ柳陰如堂
そよよの家こゝわのこ志事考と
白ぬれささりの東の甲斐唐三子
河色大外も信やこゆらん小珠

昌比十一 既在八
孝与八 信中七
生 九句 了俊六
友益八 了双六
子 七句 菊 七句
昌珠八 如堂七
若 七句 小珠一

惠雲院殿造善

獨吟

紹巴

月そ入向まゝ人道のゆゑか
夜更空の野人のりり方
けむ荒れ新い美くは虫のさ
涼しくはそ毎日の言ぬり
陰進くあま月映そぬ山風
所くまを白のりと松のさ
松のや垣下と波の言のん
一息をいれくもあまのそ

若
 川風の一角は白く芳晴と
 又やあしは秋のらん
 袖あしはほい洞のいふ
 かさの衣もあはれは
 忘れぬまの向の死ねばよ
 道多しつらき事よまの
 洗車もあはれよまの
 石もあはれ
 人ほふ也

波白く芳のりる瀬胡嵐
 こと神と神の川亦春
 人そはるる田の流りて
 昌比
 こころも月かきり
 絶巴
 しつるも晴るりて
 春
 こころも月かきり
 昌比
 春
 人そはるる田の流りて
 絶巴
 こころも月かきり
 春

家かゝく伏松の床とては
 かゝる〜 千代田曲もむき 詠巴
 水こゆる境は〜 ちのうん 昌比
 やあ〜 され〜 輝れ又波 菖菖
 とさ〜 あり月乃〜 草方 詠巴
 何さ〜 わさ〜 馬のなを 詠昌比
 白鷺れ千羽〜 ちのうん 菖菖
 ゆき〜 強り〜 心しき 詠昌比
 船〜 言〜 ちのうん 詠昌比
 そ〜 け〜 出ける人れ 詠菖菖
 世〜 け〜 又わ〜 ちのうん 詠巴
 う〜 け〜 ちのうん 詠昌比
 守を〜 け〜 ちのうん 菖菖
 あ〜 け〜 ちのうん 詠巴

う〜 け〜 ちのうん 詠昌比
 川〜 け〜 ちのうん 詠巴
 う〜 け〜 ちのうん 菖菖
 何〜 け〜 ちのうん 詠昌比
 わ〜 け〜 ちのうん 詠巴
 か〜 け〜 ちのうん 菖菖
 う〜 け〜 ちのうん 詠昌比
 何〜 け〜 ちのうん 詠巴
 一夜〜 佛〜 ちのうん 菖菖
 誰〜 け〜 ちのうん 詠昌比
 う〜 け〜 ちのうん 詠巴
 舟〜 け〜 ちのうん 菖菖
 八十〜 け〜 ちのうん 詠昌比
 ち〜 け〜 ちのうん 詠巴

垣ねま申候その為化る人 菖
 きりけり〜道のやぬ東 昌
 陰も程か〜ぬなるま本も 紹
 夕日ぬら〜馬が〜也 菖
 雲も〜さ〜り〜花お好 昌
 祐らぬ〜ぬ 最〜の 神 紹
 体じもぬ〜り〜程は〜也 菖
 志向も〜ら〜ぬ〜多〜り〜人 昌
 外よ〜ん〜門〜わ〜け〜と〜大 宛 紹
 そ〜の 柳〜人 陰〜の 志〜の 菖
 釣棹も〜と〜り〜月〜の 菖
 ち〜い〜の 船〜を 波〜し〜ぬ〜人 紹
 誰〜し 今日〜も〜い 捨〜て 玉 菖
 玉月けら〜り〜な〜る〜と〜り〜し 昌

虫の毒し〜ぬぬぬの 菖
 一〜り〜と〜り〜 満〜ち〜ぬ〜人 菖
 石も〜なる 深〜田〜中〜の〜土 紹
 朽て〜す〜り 木〜の 好〜る 材 昌
 家〜の〜し〜ら〜る〜の 朝〜の 結〜や〜て 菖
 陰〜し 社〜の 舌〜れ 杖〜し〜し 紹
 梅〜と〜し〜ら〜ぬ 卒〜甲〜れ 又 菖
 誰 袖〜り〜〜 ひと〜し〜を 通 菖
 の〜と〜け〜ぬ 釣〜の 好〜る 人 紹
 う〜れ わ〜り〜す〜し〜ぬ ち〜ら〜ぬ 昌
 か〜ら〜ぬ 花〜も 月〜は〜る 菖
 ま〜ら〜ぬ 方〜と〜り 福〜の 好 紹
 海〜の 浦〜や 花〜も 波〜の 結 昌
 末〜の 花〜の ち〜ら〜ぬ 菖

たも根麻之りくと道々て昌比
河々女れ能れ霧うとき比絶
らるるはけめふ光しき通り者
りしそとふれ神うらの中昌比
わら穢の舟の宮やより今て絶巴
候し風りの毛もまのり者
りしそとふらる格の死の昌比
多れもゆらう家れ者後宗及

紹巴 三十三

藤孝 三十三

昌比 三十三

宗及 一

深の色ほもねん為紅葉

白

ら物とらねん海りのり家絶巴
麻れ若し月てふらる露降て昌比
詠やあしとれ吹とる人の家
こと神とさく波のう瀬根絶巴
一しとてはけく川りこ白
招く煙のふふりてて
物とらるりの家白りて昌比

白の梅の影の道末白
涼しきふぶ立の体ぬ結巴
のち約と夏の志をりに引きて昌比
のこみとこゆかぬふかき愛心あ
川つやまき晴あちぬぢん結巴
風のまふくそらく行のそ白
わりあの啼あやと誘い進めあ
それうらまらやゆき華昌比
かさねけり薨の影は月影白
本す急の秋のそらうあつ美結巴
日らうわ蝶の翅あゆみ昌比
かこいけのそええとそえあ
霜あつち葉の下に死候て結巴
かこぬつらりの梅あゆみ白

とわくや袖入野の朝霧あ
ふかしかつわの影あゆみ昌比
波のふぶ約あゆみあきて白
夕日去の空の陰の影あゆみ結巴
一とたのそらうと晴通と昌比
雲と飛くからる屋の子心あ
輝の影と晴あゆみ愛愛と結巴
いさみの枕あゆみあきて白
月あつた度けはつて人の心あ
とぬの美あゆみあつた言昌比
舟あつちゆき結巴あゆみ白
そらうまきぬ風あゆみ結巴
今いさ口こり死あゆみ昌比
あつちうまきぬ影あゆみあ

降高し里のこゝに遠く野は絶
 然してはしるるもあはれむ白
 夕もたれ夜は菊の香ふよれて心
 志ののちもあはれほろけぬ友昌也
 春さしとてそと文は月夜玉白
 かまふつらむくしのよりほは絶
 笛の素もまはれ人の恨も昌也
 二ぬ人わりの宿の本つゝ心
 ちもさるゝ春の板戸押開の絶也
 折るくしむくはるるの日のま白
 何らく笑ふの捨糸よるをそ心
 鐘のつらふとゆりそ初瀬昌也
 灯れかどりあはれあつらん白
 人のせむらひもあはれそ道絶也

ありあつらりてたつたつて昌也
 阿まららむとて代への昔目心
 ゆくもたれあつたつて人むつて絶也
 いそげむつらむり契りて玉中白
 法衣の袖の舟筒よりあつた心
 さかろく星のつらふとて昌也
 仙人のまわしかるるもつて白
 夕のりかくれもあつたつて絶也
 かれてうらむあつたつたの席の昌也
 かさつたあつたつたの松風心
 暮れもあつたつたつた絶也
 ありとつたあつたあつた白
 物つてつたあつたあつた白
 悔しやそのあつたあつた絶也

ひつ竹の伏見の里の昔も 結巴
こり人生をさるる末く 白
道りきつ福や麻をさるる人 結巴
心りゆりつとくろり所 昌比
まればなり 仇耳の文も 求り 純白
かきつと 枝と 枝を 枝 結巴
うさかりつらぬらうつ 心り 結巴
ぬらうらとくろり 結巴 結巴

白 二十句

結巴 二十五

昌比 二十五

心希 二十五

何人

玄旨

ま神も物氣 落つありと 枕
月ハ入野と 結つ麻を 昌比
風もさるるのさるる 結つ 昌比
心りつとくろり 結つ 玄旨
釣舟やらうと 結つ 結つ 人日
里多 おくわら 浦の 結つ 昌比
あつと 結つ 結つ 結つ 昌比
と 結つ 結つ 結つ 結つ 玄旨

美竹の芳木下まじしくよ日
 何と海あり月れりて是昌也
 契さけい略伏座れをて日
 わるれうつりの啼き立詠言旨
 分る人方しかこの道の道日
 嵐の疾や神の言昌也
 山雲のさ日成るも関きの日
 新りのはしそこのたぬ言旨
 られ竹のたると水やらさん日
 毒らばゆきと友とぬあ昌也
 陰しき多閑しとらあ敷言旨
 かとらすけと書とわあさん言旨
 ふての秘(る)あめいさあふ日
 う(き)とあさつ(き)と花昌也

めりおれよいあまの(は)あめ日
 生れ出しようらわとし言旨
 魚てまのせあまけら飛らん昌也
 西風新りのりしとらぬ言旨
 五塔のふとまの月よふて昌也
 りらりの舞も本うら風言旨
 ちの田の野い志のいぬあ言昌也
 ぬらりの(は)あまの古文道言旨
 小車りのりてふん(は)出て昌也
 りわき(は)あまの(は)あま言旨
 新らわたりつる日と一わらり昌也
 けあ(は)あまの(は)あま言旨
 巖こゆる(は)あまの(は)あま昌也
 め(は)あまの(は)あま言旨

つららわらぬの国にのこるをいふ
力の衆にまはりしと人昌比
玄輝と田所よつらぬ愛日
雷まの方多松乃本あまの
父物と命りつらぬ愛日
江戸あまをくたぬのうらぬ日
川あまの波まはらぬ日
いふ星うめて又南死法 昆

玄旨 廿

昌比 廿

心何

紅葉や嵐くまのつらぬ日
つらぬ志らぬ蜂のゆらぬ九智
花房のゆらぬ霧のつらぬ昌比
初嵐まくまの月あまの玄何
瑞らぬの袖や涼くまのあまの益
戦のつらぬ竹のすまの縁
道おまのつらぬ斗のつらぬ最
日秋うのつらぬ星のつらぬ幸隆

若ウ

枯果 中ふはしあひまふと友益
まうつ〜き園の梅子 寂
心儀のともわたり義と縁
掛植のあはもそ縁より書隆
とわわ田んくはせりその時得 紹巴
させら書(八)の柳人らうの昌叱
坊かより死れ事らうの書隆
長尺ゆゑとれう〜との教 九智

- 紹巴 十三 系敏 八
- 九智 九 幸隆 八
- 昌叱 十三 素仙 七
- 玄仍 十 長妹 七
- 友益 十 宗實 六
- 禪高 八 小梅 一

御何 千句と内

橘

とらふよ月らに白梅の
待来之る白初馬の聲 後在
萩の葉いさるうれあすて 足腸院 信正
卒と〜と〜のり書乃心 徳哲
袖さるの聲乃道乃梅〜心 心寄
形吹かりと川風乃末 滋成
りあまうの春初乃村楊 兼純
ほも下らるる書乃書乃人 仍系

病葉の香と斗しとまは白
 去のの亂交の歌の白言金
 燈いふ言の甲の筆大の元理
 唱ふら歌もともめ白懐 孫阿上人
 かなさる齡と月よ井信と紅巴
 朽しゆりし白蓮生の輝如毫
 言の長人風霜ともか蒼宗艱
 かりんと静しとてん七言玄武
 ともひうしまも人いあきほ言の
 といと奇るるもあもしとふ橘 後五
 宿りしと定められ旅大歌 小物後
 わりしと争ふ陰の道 是勝元
 筆大葉大とふしといの元言ん 徳哲
 高の事かとし信東といし心あ

志のふしとまは白のひかりて 儀成
 心むら海しとて白約紅葉純
 去らぬり浦りしと輝のまゆ京
 かなぬりまよふかくれ月白
 古く人えとてととと書信て金
 心りら海りわしとゆきわ 九理
 麻子ぬと志けと真のまは 孫阿
 照日とさりの常夏と名あ紅巴
 白ぬやとりし斗よとてはとん 如也
 海らふとせられあこゆると波宗艱
 誇れわらうけみ杭の川京と玄武
 作の田南の里と名れ赤苗 後五
 かりしと煙とたぬ席りて 紅巴
 心松大葉りしととと命り 宗艱

法よみとわはるしそからん九理
 わり果の世と志ひいしるし金
 はこまらぬくはらう樂系色
 うららのちえうらうらと信正
 年(い)ちた人れより事て 徳格
 ゆうらう坂と契りも志れ 宗艱
 申いゆわらふ斗の清さよ 紙色
 紙人らうと紙とそらとよ 紙上人
 一長とそせりけりやがう人 仍京
 日らうとそぬ月の方毎 滋成
 ぬらうとそ玉跡大あつ輝風よ 心あ
 けらうとそらうとそ 帝 虫の殻 櫛
 死れまの着なる 蝶の菊 福て 宗艱
 けり 仰らうと 仰らう (一) 紙金

庭の面らうとわはるし 後世 初言よ 期は
 ゆうらうとそらうとそ 友よん 宗り 紙色
 うらまらうとそ一筆小書こめく 元理
 何の紙とそらうとそ 葉の道 滋成
 鬼神とそらうとそ 世とわらう人 玄武
 ゆらうらうとそらうとそ 玉の年 宗艱
 ちらうとそらうとそ 志れ 友とそ 金
 こらうとそらうとそ 風の方 梅 之徳院 信正
 地火とそらうとそ 志れてん 月よ 宗艱
 いとらうとそらうとそ 友よん 宗り 紙色
 ちらうとそらうとそ 始らう 孫 信正 上人
 かたらうとそらうとそ 志れ 友とそ 金
 涼とそらうとそ 友よん 宗り 紙色
 志らうとそらうとそ 志れ 友とそ 金

ウ
あつらひの釣籠の面物の物かき言件
ふりも志留し因の梅え是の
かよひの月の中風馬経毎長味
春しらるれい言そりや康真
業人の神をいふかられ義光
核さそそゆらめら言ら昌比
白きりかきるちの籠あ人生
白きもそし入あいの種紙巴
浦侍の恥かのみも漕きて言の
なごころくたの沖のいかに菊
方くよ啼を涙をいふら業敏
の歌よふをの松さる友益
川捨しそりや死れあうん是の
分入らそかきと流ゆく玄仲

二

涼もやらしつるを右好は昌比
あささうし星の傍 森
立凍より白波の輝の風絶色
ふりく月の新いふき義光
薄雲の隙の跡沢のあ白き菊
晴外床をこつかなる人生
人から田中の人れ未嘗て友益
しうくあし布留の世系玄の
秋さあ傾らいつおらん玄仲
風あそ流のこり火の影 宗敏
あつらふ悔もあつらふそ是の
あつらふ悔もあつらふそ昌比
かきつあつらふ末よつらん 義光
あつらひの中しあつらふ 絶色

五月ぬよ忘るの昔人生途で玄の
 心の平れ縁やうぬ菊
 昔ぬるに短くはぬお閑生
 夕よなれは様さ常ふ也 義光
 もこおる葉からぬのこ病乱昌叱
 輝のわくく多き森下陰玄仲
 さけさけけぬ斗の家母で紙巴
 いやるなれやうくわする神是行
 沈月よ園の枕れ又海り宗教
 物としりさささしりううを益
 面顔いさふらうす中なわ森
 と物やうとことし死のをふ昌叱
 長栄守の方よの悲れを啼て菊
 去りかりまの神のまへく 玄仲

とらふにけいむかしうやで 義光
 いふけいむかしうやで 玄仲
 おくくとわくくと物事の試よ 宗教
 人よふらてやこ常の法り師菊
 やくくやあうらし神よさるが 森
 けふ車や園の戸れまら生
 とくふくそをいひひえあまが昌叱
 志ふふつや弁のくものを紙巴
 祐とよしういあをる月のと菊
 昔もいよとしてくらむさうき反益
 墨くしわのぬ影や舞の袖是行
 かとこのつうられ糸亦れく糸宗教
 死の哭し常ふのメやおしん 玄仲
 けくまるとあつとんをすれ 義光

風もさゆさぬれい吹きぬこ是阿
 まる初言いけりうさしほ 紙巴
 一巾のふさりれさうれ立て 友益
 紙ぬり紙くしおむじの書 宗教
 ちぬ野し月をわすれ花也 昌比
 家らうし俺ゆく旅の神生
 衣らひもふ紙紙がわめて 玄何
 尾とわたりいぬぬ 菊 茨 菊
 朝らうし松は煙のじすれ 紙巴
 當らうしうらもさけら 蚊 蚊 義 亮
 わらうしあさうらう 狂 狂 人 玄 仲
 人まのじひいこうおぢい 昌比
 新由よあさた命しうぬう 生
 としよらういせを 教 也 森

ちうゆり力ういじまに教を紙巴
 門 廣きぬ人すうの末 昌比
 ちのしきうらうとさう 敬 徳 也 生
 ぬらうしあさうらう 玄 何
 乃らうし列とやい 教 一 凡 宗 教
 笑うぬらうの神のまうりり 菊
 去とさういづう 友 益
 花もささうれ又池のあふけ 紙巴
 浪こゆら風りま柳方きて 友 益
 うぬと 治 田 の 畔 の 紙 一 玄 仲
 家らうしあさうらう 末 昌 比
 旁らうしあさうらう 末 昌 比
 さゆらうれ書こら俺ら心の陰 昌比
 菊一し州と馬とを 藤 原 生

涼しき草花の露も
 くらりとらうと管をうら
 若くはのほろりや
 垣の旁にさしほよるり
 花をむかひぬさし
 うと水あらしの
 かたしと野原の草
 われもと能く
 藤わらうら
 うと世も
 多しと
 かたしと
 花は
 胡蝶の

二

ゆゆ字に
 こどもく
 日大け
 隆とほ
 しつれ
 うと
 遠か
 梅の
 月代
 心の
 花
 人
 ちつ
 われ

蓬生やふのいり道のそ 松純
 のさく松のさ枝朽さる 英枯
 ありさうはあま境やふのうん 氣敏
 所へ松と舟波ふあふぬ 目大
 きたやうしあしきいさ 庭古 経巴
 道安より奇の科 のま 昌比
 輝風のま羽の掌の涼し 玄の
 かあしーかろうくねりり啼る 松
 月よた多路へらのよふ入る 玄以
 神のあさうれ玉よけりさり 既立
 何さうの氷やじさうささじ 正盤
 道のかさりの柳あさうさ 経色
 誰とあつ死の門さう用わらん 昌比
 りり人々さあ 寺さかしまあ 既純

何さうの佛さうさ 松ありて 目大
 じさうさのいさしつさ 末れよ 玄の
 けさうのささらあさうさ 人 既立
 あつあつ女のけさうのさうさ 昌比
 大さうのさあさうのいさ 海が 既純
 松しさあさうさ 寺さかしまあ 既純
 お坂と越さうの志あつあつ 経巴
 松さうのいさをいさ 心え 正盤
 一さうの月りのあつあつ 目大 英枯
 端居さうのいさ 柳 目大
 益さうのさうの限れか 目大 了悦
 いくささうのさうのさ 柳 目大
 系竹や水日あつあつ 目大 玄の
 何さうのさうのさ 目大 既純

若う

天津星のつよあつての果て絶
かき抄の糸れも人あつたぬ 既在
高かき入つたつとつとつとつと
かしのええふふふと田ん系 既在
み月あふかきつ席へて斗 目大
而くくくくくくくくくく 昌比
死しもあつたつたつたつたつ 昌比
うらむとつとつとつとつとつ 正盤

結巴法眼十一 英佑九

玄仍九 正盤九

玄法京十 既在八

昌比十一 了悦八

目大九 京叔六

秋絶橋九 小梅一

昌休七廻追善独吟

絶巴

稀よふ絶絶と雷れ毒比が
枯生けりりり 病つとつと
秋よつとつとつとつとつと
人よつとつとつとつとつと
り神やうとつとつとつとつ
多とつとつとつとつとつと
信つとつとつとつとつとつ
まらつとつとつとつとつと

ウ
つかりの露よぬれたる後
跡なきを道り言はぬ
おしよる袖にけしき
人志半ばや九折のうら
ほをたふしの里にけしき
め方ほそけらるる川を
くまや入ればよほしき
けぬとけしきぬしき
こゆ馬大羽風をけしき
人結癖りまらけしき
笑いとて麻と國のけしき
白のけしきぬぬしき
せらるの苑のけしき
業のけしき

二

世後をまたくぬ水
うら流り木葉をよ
かきしわらわしき
今をのけしきぬぬしき
かきしわらわしき
あけぬけしき
妹の風かの下葉をよ
夕まされしけしき
あけぬけしき
旅のけしき
けしき
あけぬけしき
あけぬけしき
あけぬけしき

右
 心くもわうくよの氣まは
 小忌の衣れ袖の敷く
 祭をいし言ゆもいれきて
 乃多あはれら森の木徳
 草うの中は落る白雲の苑
 きるあふぬえあまきく
 かまじ跡いそこらとわく遠は
 久しう塚れがも
 心くく

何処

河風れ着たよのうらわが結巴
 くの波をく月さじこふ九康
 旁れあのかれれら跡い常昌比
 虫の毒かきくるの末く玄の
 泣くうそりや輝れ文のへん英信
 家志くられいこらうたあつ葉ぬ
 吹とさるわくれまのしんが結身
 胸へ入るれ目いあまらり玄仲

ウ
ふたりのあやうきいづれん 意
おしりさうくかきく其竹 林忠
言わらう田面の乃い遠くを 宗純
里もなれかろる席たきい 石丸
りいさう松の格くわらさ 九康
ら何うさふし花れちる詠 詠巴
ぬさかろわたりあふ立消て 玄の
みくしあきろつさの流波 昌比
水とや言ひ月よ成字し 兼如
おと袖よわのさうさぬ 英信
家治の竹れ末葉の風て 玄仲
いさしわわらつこの意 詠巴
ゆきさ人字もわらう苗の原 林忠
後果とさふさう字れちる 意

二

せと捨つてはつとくの方て 意
可く杖さきくわらあれちる 詠
獨いつのまわしあひけさし 詠巴
風よ何そらか管をさる 九康
しつ声れ家の玉の輝かき 昌比
旁れと縁のちまの涼くさ 玄の
ゆらさの月かのわら梅のと 英信
竹さつらさく入れさく入 兼如
あしつの中とや候り位而 詠巴
田つとよほく時れ一とら 玄仲
くさつら約のつかきと 玄の
縁さらうさ向袖のけり 林忠
いさしつらこのらあさ 玄の
言ふ方よりけあさぬわら 詠巴

旁ゆふ格ふのくみ付て玄仲
 飛つてほふ、鷗れきく忠昌
 いらききうのふ登れ結道、兼
 らぬもあけつ月れき高結与
 蓬生いそこ年れあわて九康
 らわくいさのわもあもて玄何
 の果は又あつてつ炭れき結巴
 かりぬきをけつ結葉枯
 花は馬ゆり物と恨そ昌叱
 琴も長茶ううと九琴九康
 あひらけ方と梅の夕かき結忠
 契つてつる中いふ心つ忠良
 仲れらあふふつ後つら兼
 きてぬの神れきうういあ

こつていふ庭あうと玉うて玄何
 旁うし船り出つてつ結巴
 夕つかの倉いそあ輝の波九康
 色にら藻とつこのにん昌叱
 月をねむいよああいつ斗兼良
 秋もそわはる盡りあ兼あ
 かじあしと秋と云れ限は兼枯
 うやうのうふ花いりそな玄何
 けつていよ笑こそ出れ園の梅結与
 らつりつらな雪れく忠輝忠
 ふうかお面い言れつら結巴
 人てもあつた名あつて玄何
 うつてあわわあつて結昌叱
 わつてあつてあつて結忠

若

桐の葉ついで斗りあつらん絶
かきつはとつて人そゆゑに康
つ道あつてつらかきつはとつて
こゝろいふつらつてつらつて
そまきつらつてつらつてつらつて
船のわしつらつてつらつてつらつて
啼きつらつてつらつてつらつて
なりつらつてつらつてつらつて

紹巴	十一	玄仲	七
九康	九	玄良	七
昌比	十一	秋忠	七
玄ゆ	十	宗就	五
英佑	九	石丸	六
兼如	九	徳吉	一
紹与	八		

何船

空ふりあり来り玉われ
わしつらつてつらつてつらつて
祐とつてつらつてつらつて
去りつらつてつらつてつらつて
吾柳の陰つらつてつらつて
田中つらつてつらつてつらつて
川つらつてつらつてつらつて
舟つらつてつらつてつらつて

紹巴

わうのいそし中い何あてまの
 うわくしきし春つうう兼あ
 ゆうたけまの神し海わきわ結巴
 まるみの雲たのうらう九廉
 あさつこはは入らううはて昌比
 ちわうと終よゆか釣舟意
 歌とあは曉月いなきうと長安
 輝のちわういそらうられ色まの
 東よ秋田面のまやあうらん兼飛
 まう清まてあおんてう雲結由
 うのちら光しきまかちうて助
 分入るるわ本あうらう結巴
 るわう花いあまのあうらう昌比
 まうしそまう一帝叶の玄仲

じくぬきう捨のわま九廉
 川まのあうらうまのの神安
 洞なやあぬのぬまうらん結巴
 ちとく入りこり恨まうか昌比
 かはあうたうふこぬまを初て兼如
 といそあうらううの田舎恒兼飛
 月うま教うらうとまぬい出結由
 ひとらとけあうらうとあこれあ助
 ねくふらうらうとけとあてまの
 けこまうまわらうらう兼れま玄仲
 うのいこの秋めらうらう兼あわ意
 涼しき風いあれあうの袖兼あ
 いもと初て兼あうらうとあて昌比
 あまう枕よまうらうとあて結巴

ちりちりききしつてくわんて生
 秋のふけりしつてくわんて生
 松墻やこふもあつらん子
 まる木葉そぬは家伝しと玄の
 わりぬるわんは解し書果て昌比
 秋とて海くはらふまなり馬陸
 かげしやわんは月ひかり絶
 ちれてころもぬらうは
 かりくは家路のやうと問きて昌縁
 わんれしつとあつて花を昌比
 非極しあ葉の菊は白つえ玄仍
 家よとらりて胡蝶はわんは結巴
 友の白路は白の白く白款玄仲
 とつれと葉はわんは白袖生

弟刈も木らわんは白の海は縁の
 風りこめしつとらうは白の白子
 夏とて海くはらふまなり馬陸
 解のまらうは白の白く白款玄仲
 くら葉の本伝の月ひかり絶
 らもらわんは白の白く白款玄仲
 以勢大とてあつては白の白く白款玄仲
 ちりちりききしつてくわんて生
 さつすまの甲伝は白の白く白款玄仲
 ちりちりききしつてくわんて生
 ちりちりききしつてくわんて生

漸々成り此の院生
 虫鳴弱る邊生乃陰菊
 野分より秋の静しきなり
 去入の音は又何の雨
 此の静しき雨の音は
 唐土よりや意玉の年
 此の静しき雨の音は
 此の静しき雨の音は

紹巴 十二 菊 九句
 禪言 十 昌承 九
 昌叱 十二 玄仲 八
 生 九句 美隆 五
 玄仍 十 能高 一
 子 八句

